



私を育ててくれた民保協

事務局長 遠藤 正明



この原稿の締め切り間際、世の中はオミクロン株による保育園の休園が毎日のように報告され、北京冬季オリンピックでの日本のメダル獲得に一喜一憂をしている中、何について書こうか思い悩んだ末、私が東京都民間保育園協会と関わりを持ってから今までを振り返ってみようと思い、このタイトルにしました。

最初にこの団体に参加したのは、台東区の園長会にて東京都民間保育園協会の地区委員に推薦されたことがきっかけでした。当時台東区私立保育園連合会の会長は東京都民間保育園協会の初代会長の進藤克先生でした。その先生から保育団体のことを勉強してきなさいということで、送り出されたことを昨日のこのように思い出します。それからが大変でした。地元の園長会に参加し始めて3年程度経過し、その場の雰囲気やちょっと慣れた頃、東京都民間保育園協会の園長先生と関わりを持つわけですから、自分に務まるか不安な気持ちで押しつぶされそうでした。

当法人の当時の理事長が雇用対策部に所属している先生と顔見知りだったこともあり雇用対策部に入部しました。参加当時の雇用対策部は前々会長の齋藤和巳先生、現会長の宮崎豊彦先生が所属しており、会議内容が頭に入ってこないほど大変緊張しました。しかし、会議が終了しその後の懇親会に声をかけて頂き、すぐになじめたような記憶があります。ものの考え方やトラブルに対応する時の優先順位の捉え方等は、このような集まりに参加することで学ぶことができました。そのときに出会えた諸先輩がたの教えが現在のベースになっています。入部して6年が経過し、平成25年に雇用対策部の部長を任されました。自分自身の中ではうまくまとめられるか不安でした。目の前の課題を一つ一つ精一杯やっただけで、全く余裕はなかったです。同年9月には当法人の理事長が亡くなり後任を私が受け継ぐことになったため、とても大変でした。平成26年には当時の長田朋久事務局長から副事務局長に任命され、これには正直驚きを通り越して戸惑いがありました。保育園フェアの担当もしており、毎日忙しく動いていた記憶があります。それから2年が経過し平成28年、全国私立保育園研究大会（東京大会）の開催準備を東京都民間保育園協会で行うことになり、連日夜遅くまで会議を行いました。大会の準備がこんなにも大変なものなのかと実感し、皆様の協力の下に大会が成功をおさめたときは達成感を感じることができました。このことは私にとってとても大切な経験および財産になりました。同時に会員園が多い東京でさえ準備が苦勞するのに、会員園が少ない各地区はもっとご苦勞されているだろうと思います。それからは大会に感謝を持って参加するようになりました。現在コロナ禍でリモート開催のみで現地開催ができない状況ですが、元に戻ったときには各地域の研修会には積極的に参加していきたいと思っています。

平成から令和に元号も変わり、年月が経過しました。東京都民間保育園協会の会長には雇用対策部でお世話になった宮崎豊彦先生が就任し、私が事務局長を任されることとなりました。右も左もわからない私を育てていただいた東京都民間保育園協会の諸先輩方および事務局員に感謝いたします。

事務局長としてまだまだ未熟で勉強しなくてはならないことがたくさんありますが、これまでの経験を生かし、今後も頑張っていきたいと思っています。皆様よろしくお願いたします。